

「復興知」を未来につなぐ

～東日本大震災5年を迎えて～

東日本大震災の発生から5年を迎えようとしているが、東北の被災地はいまなお復興の途上にあり、全国の約1100市区町村に19万人もの被災者が避難している。被災者支援の法制度が不十分な状況のなか、ようやく誕生した東日本大震災復興基本法は復興予算の流用を招き、復興の主体、復興の対象があいまいな役に立たない基本法であった。

一方で、制度の隙間を埋める被災地、被災者の間から生まれた支援の手法は、復旧・復興の各ステージに応じて、さまざまなバリエーションを生み出し、新たな災害文化を形成しようとしている。個人レベル、自治体レベルで生まれた支援の文化を来る巨大災害に向けて、定着させ、磨き上げて未来の被災地とともに共有していくことが重要だ。

2016年フォーラムは多様な形で被災者の支援に携わる研究者、実践者をはじめ、阪神・淡路大震災や中越地震、東日本大震災の被災地と南海トラフ巨大地震の想定被災地から首長をお招きして、復興の課題を考える。

全国被災地交流集会「円卓会議」

2016年 1月10日(日) 13:00～17:30

関西学院会館レセプションホール (兵庫県西宮市上ヶ原一番町1-155)

「あきらめない最後の一人まで～中間支援・当事者支援・いるだけ支援」

司 会 野呂 雅之 (関西学院大学 災害復興制度研究所 主任研究員・教授)
松田 曜子 (関西学院大学 災害復興制度研究所 研究員・准教授)

シンポジウム

2016年 1月11日(月・祝) 13:00～17:30

関西学院会館レセプションホール (兵庫県西宮市上ヶ原一番町1-155)

■ 特別講演

「災害復興と『Mastery for Service』～関西学院のSpirit～」

ルース・M・グルーベール (関西学院 院長)

■ 特別報告

「漁業者からみる震災復興」

畠山 重篤 (NPO法人森は海の恋人 理事長／カキ・ホタテ養殖業)

■ パネル討論

「被災地責任で巨大災害を迎え撃つ」

趣旨説明 野呂 雅之 (関西学院大学 災害復興制度研究所 主任研究員・教授)

パネリスト 泉田 裕彦 (新潟県知事)

(五十音順) 井戸 敏三 (兵庫県知事)

奥山 恵美子 (仙台市長)

尾崎 正直 (高知県知事)

司 会 室崎 益輝 (神戸大学名誉教授／関西学院大学 災害復興制度研究所 顧問)

申し込み方法

参加ご希望の方は、裏面の参加申し込み用紙に必要事項をご記入の上、下記宛に郵便、FAX又はメール(参加申し込み用紙と同じ項目を記載)にてお申し込みください。(入場無料)

関西学院大学 災害復興制度研究所 〒662-8501 兵庫県西宮市上ヶ原一番町1-155

URL <http://www.fukkou.net/> TEL.0798-54-6996 FAX.0798-54-6997 E-mail: kgu_fukko2005@fukkou.net

[主催] 関西学院大学 災害復興制度研究所 [共催] 日本災害復興学会 [後援] 朝日新聞社